

に人々は住むと思うんですね。そうした長期的な目標を常に掲げるという意味では、県が進めている震災対応は地方創生にマッチしたものです。具体的に申し上げますと、1番目は経済的豊かさをどう確保するか、2番目はプライドをどう確保するか、3番目は安全・安心をどう確保するか、4番目は夢をどう確保するかということです。この4つが県民の総幸福量の最大化に貢献すると考えており、王道だと思っています。知事就任以来、今申し上げたような熊本県を創りたいとの思いを持って取り組んできました。震災対応でも同じように、ただ復旧するだけでなく、4つの要因に対してプラスに影響するような創造的復興を進めています。

今回のテーマである人材確保の具体

例として、県が国家戦略特区で提案している取り組みがあります。外国人留学生が熊本に残って起業したいという時に活躍しやすい環境の整備を行うというもので、これからの人材確保に向けた一つの対処法になると思っています。日本人の人口は限られていますので、いかに外国人留学生や海外研修生の中から人材を確保していくかということは大事な観点だと思っています。

それからもう一つ、人口減少社会というよりも、人々の夢に貢献する取り組みかも知れませんが、県のPRキャラクター「くまモン」の活用法を研究する「くまラボ」を、9月から官民共同で開設する計画です。これは熊本地震からの復興につながる新たなサービスや商品開発を進め、

若い世代が生活しやすい環境づくり、 「子育て支援充実させ、人材確保を」

大西市長

松岡 続いて、大西市長お願いします。

大西 人材確保を考えた場合にまず、若い世代の方が生活しやすい環境かどうかということが大事だと思います。具体的には子育て支援を十分にしていくということです。人口減少社会への対応においては、子育て世代への支援を十分にしている地域には良い人材が集まってきます。例えば熊本市市民病院を新たに作る際にニーズを聞いたところ、近くに幼稚園や保育園があれば、良いスタッフが集まるという話がありました。つまり、いま課題としてあるのは、子育てする環境をどれだけ充実させるかということです。

次に介護の環境ですね。介護というのは今後、誰もが直面してくる問題です。例えば東京の大学に行って、向こうで就職した人の両親が熊本に住んでいる場合を考えると、すでに親の介護という問題に向き合っています。そういった皆さんが熊本で働きながら子育てや介護という人の一生につながっていくことをする際に、基盤がどれだけ整っているかというこ

とは今後、重要だと思います。

熊本市では、以前から子育て支援に対するさまざまな取り組みをしてきましたが、私が市長に就任した当時は待機児童が非常に多かったです。これを何とか改善するために対策を打って、2年連続で待機児童のゼロを達成しました。この結果においては、きめ細かに人を入れてさまざまな要望に沿うマッチングを行い、うまくいきました。しかし、それでもまだ満足してはいけません。まだまだ希望に沿ってない方もたくさんいらっしゃいますので、そういった方々の希望に合わせる環境を追求していきたいと思っています。

それからもう一つ、子供の医療費において、私がマニフェストに掲げていた小学校3年生までの医療費の助成を中学校3年生まで拡充しました。こういった政策を進めながら、熊本という地域は子育てしやすい街で医療環境も充実しているということが今後、若い方々の働き方に希望を与えるものになっていかなければなりません。

「くまモン」の活躍ぶりを海外に発信し、海外からの交流人口増加につなげていくのが狙いです。今まさに参画するメンバーの公募(8月10日メ切)を行っているところであり、くまモンの活躍空間を飛躍的に拡大させ、本県の世界的知名度やブランド価値の向上につなげたいと考えています。

他にも、海外からの人材確保、それから国内で言えば、熊本出身の方が熊本に帰ってくれば奨学金の返済が不要になる制度など、個々の施策に着実に取り組み、それらを王道の部分と結び付けながらやっていかなければいけないと考えています。

「若い世代へ技術を継承していくことも大事」

大西 最後に、ICTなどの技術が発達してきたことで、時間や距離を問わない仕事の働き方ができるようになってきました。「働き方改革」の観点で考えると、在宅においてテレワークでできるということが、すでに複数の企業で始まっています。もちろんメリットやデメリットはありますが、テレワークのような働き方改革で企業にとって生産性がアップするものに対しては、行政としてもテコ入れをしていきます。そして我々行政も率先して働き方改革を実施し、だらだら残業せずに生産性を上げた上で、自分たちのゆとりある生活をしていくという部分に、人材確保という面では、大きなポテンシャルがあると思います。

さらに人材育成という観点で申し上げます。今まさに熊本城の復旧作業をされている職人さんがたくさんおられます。技術を持った職人さんたちはだんだん高